

## 第 43 回 大阪市廃棄物減量等推進審議会 会議要旨

- 1 日 時 平成 20 年 12 月 1 日（月） 午前 10 時 30 分から午後 12 時 30 分まで
- 2 場 所 大阪市環境局 第 1 会議室（あべのルシアス 12 階）
- 3 出席者  
（委 員）  
藤田会長、村田副会長、池田委員、大橋委員、小畑委員、竹内委員、田村委員、  
花嶋委員、福岡委員、松本委員、宮川委員、吉田委員  
（大阪市説明者）  
深津環境局企画担当課長、渡邊環境局減量美化担当課長、山本環境局一般廃棄物規制  
担当課長、清原環境局企画担当課長代理（司会）
- 4 議 題  
「新たに実施すべきごみ減量・リサイクル施策」について（緊急諮問）  
・当面実施すべき施策について
- 5 議事要旨  
（1） 大阪市から、当面実施すべき施策についての説明があった。  
（2） 意見等の概要は以下のとおり  
ア ごみゼロリーダーの活性化のためには、ごみゼロリーダー自身が新たな取組みを  
展開できるようサポートすることが必要だ。  
イ 事業系廃棄物対策について、排出事業者に対する指導だけでなく、より具体的な  
対応策を示すことで違法行為の予防につながる。  
ウ 事業系ごみについても分別排出の徹底を進めるため、ビルオーナーやビル管理会  
社に対して分別排出の指導を徹底するべきだ。  
エ ごみの焼却による温室効果ガスの発生する一方、焼却工場での売電による、温室  
効果ガス削減効果がある。その計算方法は決まっているものではないが、適正な係  
数を使うべきだ。  
オ ごみ減量施策の実施は、市、区、小学校区、自治会などの単位で設定するのか。  
できるだけ小単位になれば、目標も身近に感じて取組みやすいと思う。  
カ 温室効果ガスの観点から廃プラスチックのリサイクルは非常に重要だが、大きな  
問題として、容器包装プラスチックとそれ以外とに 2 分していることで混乱が生じ  
ている。将来的には、大阪市も容器包装プラスチック以外の廃プラスチックについ  
ての考え方を今後議論して整理してはどうか。  
キ 従来型の施策ばかりでは「環境先進都市大阪」と言えないのではないかと。大阪市  
の資源を利用して地域内循環にする等、大阪市にしかできないことを目標に掲げて  
いくべきだ。  
ク 経験から生ごみ処理機は大阪市に向かないと感じており、生ごみ処理をどうする  
かより、「まだ食べられる物を捨てないように。」等の呼びかけを行い、廃棄物の減  
量対策に力をいれて欲しい。
- 6 会議資料  
第 43 回大阪市廃棄物減量等推進審議会 資料